

本セミナーは、千葉科学大学副学長 吉川泰弘先生による講演と懇談会との二部構成で開催された。

開催日時：2012年12月3日 12:50~14:10 講演
14:00~14:50 懇談会

開催場所：新棟講堂(講演)、会議室(懇談会)

参加人数：57名

学生オーガナイザー：境 瑞紀（公衆衛生学教室 D2）、直 亨則（国際疫学部門 D1）

■講演

演題：「International Issues and the Role of Veterinarians」

演者：吉川 泰弘 先生

（千葉科学大学副学長、千葉科学大学危機管理部動物危機管理学科教授）



講演の様子

【講演要旨】

21世紀を迎えた今日も環境汚染の軽減、地球温暖化の解決、生物多様性の保存等、重要な国際的な課題は多く残されている。さらに、土壌や水、大気といった我々の生活に欠かせない部分にも様々な問題がある。また、発展途上国を中心とした人口爆発、食糧危機、エネルギー危機等も深刻である。安定した食料の供給（food safety and food security）や貧困と飢餓の打破は現在進行中の重要な課題である。これらの問題には宗教や文化の違い、経済格差、社会機構の違いなどの複雑な要因が絡み合って関連してお

り、仮に国際的な協力がなされたとしても安易に解決できる問題ではない。

国際的な協力をなすためには、一つの基準（global standard）が世界中に適応されることが理想である。しかしながら、世界は200を超える多様な国と地域から成り立っており、現実的には、それぞれの事情に応じた複数の基準が必要となる。食糧を含めた様々な生物学的資源を安定して取引するためには、一般的な検疫システムや危機管理などに長けた優秀な獣医師等の専門家による積極的な介入が必要となる。

さらには、環境の悪化、食糧危機、大規模災害、社会機構の破綻等は新興感染症や再興感染症の流行につながり、人獣共通感染症の流行は国際社会において一般的な驚異となっている。これらの様々な問題解決に必要な専門家を育てるためには、国際的な大局観を備えた獣医師の育成が必要である。家畜や家禽の安定した供給においては獣医師の疾病コントロールが必要であるし、安定した食料の取引を確実なものにし、人々を農業テロリズムやバイオテロリズムから守るうえで、検疫所等で働く獣医師はその最前線に立つこととなる。また動物由来感染症の調査や防疫も獣医師の仕事である。これらの獣医師の仕事は互いに密接する野生動物、家畜、人の健康（One health）に対する監視役としての役割が期待されている。

このような中で、獣医師はそれぞれの国で21世紀の国際的な課題に立ち向かうように要請されつつある。OIE（国際獣疫事務局）は新しい国際的な獣医師を育て、獣医サービスの向上を評価するシステムを構築するための新しい教育カリキュラム（core curriculum）を提唱しており、我々はこれらの活動により積極的に関わってゆく必要がある。

【質疑応答及びコメント（抜粋）】



質疑応答の様子

●コメント

[参加者]

現在 **One Health** のコンセプトが医学と獣医学の間で重視されているが、さらに多学分野を含めたサステナビリティ学という分野があり、獣医学も今後は積極的に関与していくべきだと思う。

[演者]

私もそう思う。**OIE** は獣医学大学のディレクターを集めて、**One Health** 及びサステナビリティに関するコアカリキュラムについての会議を開いた。また現在日本の各大学の獣医学部が集まり、今後そのような分野の修学も可能になるようカリキュラムの編成を行なっている段階にあり、次世代の獣医学生たちはそれを学ぶ環境を得られるはずである。

●質問

[参加者]

国際機関で働きたいという希望者は決して少なくないように思える。しかし現実的には、応募や就職にいたるまでの経路が複雑で、より多くの日本人が国際機関で働くという理想と現実とのギャップがかなり大きいように感じる。実際に職を得て働いている方々の声を集めたり、実際に講演頂いたりする機会がもっとあれば、特にいくつかのアプローチ法がある獣医関連職を目指す人にとってはより具体的な将来のビジョンが描けるのではないか？

[演者]

それは当然のことながら、世界情勢に左右される。ただし、例えば **OIE** では常に職を得る機会があるので、ウェブサイトにアクセスすることを勧める（私は **OIE** のメンバーになってから、途上国と協力しての感染症制御プロジェクトといった、グローバルな仕事の進め方を学んだ）。博士号取得後に就職することも可能である。また **OIE** オフィスが東京大学にあるので、そこにコンタクトするとよい。

■懇談会（14:15-15:00）



懇談会の様子

お茶と軽食を用意しての懇談会を行なった。短時間ではあったが、それぞれの質問や研究の話題を気軽な雰囲気の中で交換することができた。



集合写真

■学生オーガナイザーより

本リーディングセミナーは前回までのセミナーと異なり、学生が主導で企画・運営を行い開催されました。私達はこのような講演会の運営に不慣れであったため、学生支援委員会の先生方、リーディング担当事務の方々には多くのご迷惑をお掛けしたかと思いますが、皆様方のご助力のおかげで、本セミナーを有意義なものとする事が出来ました。また今回のセミナーの様な講演会等の「企画・運営能力を養成する」という本リーディング大学院の目標の一つに一步近づけたことは大きな喜びです。

最後に、大変御多忙の中本学まで足を運び、貴重な御講演を行なって下さった吉川先生、企画運営をサポートして下さいました皆様、またセミナーにご参加下さいました皆様に、この場をお借りしまして心より感謝申し上げます。



公衆衛生学教室 D2 境 瑞紀
国際疫学部門 D1 直 亨則